

「今は恵みの時、今は救いの日」

～今を生きる～

Ⅱ コリ 6 : 1-2

■ 「今」をどう生きる？

最近人生 80 年と言われますが、私たちが神様からの恵みを受けて歩んでいるのでいつでしょうか。それは正に体験している「今」ではないでしょうか。明日になれば今日だった日は昨日になり、明日だと思っていた日は1日経つと今日になります。私たちはこうして今日という日を生きています。そんな今日という日が積み重なって1週間となりやがて1年になります。だからこそ私たちは「今」、「今日」恵まれていることが重要です。では私たちは「今」という時をどのように生きたらよいのでしょうか。

■ 神様の恵みはいつも「今」

例え過去にどれだけ恵まれても、未来にどれだけ希望を持つとも、今日感謝のできない日を送るならば、私たちの人生は感謝のない過去を振り返り、感謝のない明日を迎えるかもしれないという不安を迎えることになってしまいます。聖書に『だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。(マタ 6:34)』というみことばがあるようにその時その時にすべきことを神様は与えてくださっています。ですから私たちは「今」与えられている恵みを大切にしなければいけません。私たちが今日、神様を礼拝し感謝と喜びに満たされて帰り、この喜びを次の日にも継続して次の集会、礼拝につなげる必要があるのです。そうすればあなたの1週間が感謝の1週間となり、1月、1年と続き、最期の時に「主よ、感謝します」といって恵みが満ちて生涯の幕を閉じることができず、それはなんと幸いなことでしょうか。

■ 私たちのうちにある弱さを神様に委ねる

しかし、私たちは過去に受けた傷や罪によって未来に恐れをもってしまふ弱さがあります。また、傷の癒えないまま今の生活を送ると、どうしても許せない人に対して、それだけその思いを心の奥底にしまつても、その闇が人を愛せない自分を苦しめることになります。ではどのようにすればいいのでしょうか。それにはまず、私たちの人生は過去も未来も私たちの手にはないことを知らなければいけません。自分の命でさえ私たちは誰にも保障できません。それらはすべて主のものだからです。私たちの主、今生きておられる永遠のお方こそ、私たちの過去の失敗や傷、問題を遡り癒してくださいることができる唯一のお方です。あなたの生まれる前からあなたを選んだと言うことはでき、この地が創造される前からおられる私たちの助け主は、聖書の神様だけなのです。このお方は私たちが将来を見通せず恐れてしまう状況にあっても御手をのべてくださり、過去を清め赦してください、未来に保障を与えてくださいます。あなたも振り返れば、過去にどんな歩みをしていたとしても、どんな苦しみがあったときでもそのとき確かに主の導きの中にあつたと確信できるときがあつたのではないのでしょうか。それこそ神様の御業、私たちが過去を引きずらなくていいように、私たちの思いを超えた神の導きがそこにはあるのです。神様にとって私たちの弱さは関係なく、また私たちがどんな状態であっても支障もないのです。ですから私たちは自分自身で条件をつけ焦る必要がありません。ただ神様に「もしあなたがこの状態で用いたいとおっしゃるなら自由に用いてください」と祈り、すべてを主に委ねれば良いのです。私たちが祝福するお方は私たちの過去にどれだけの問題があつてもそれを清めて思い起こすことがないほどに私たちを愛して今、生かしてくださいます。将来何が起こるか分からない不安定な時代を生きている私たちに対し、そのひとり子さえも惜しまない神様が冷たいはずがないのです。最高の愛の表れをもって私たちをお救い下さった方が、私たちが満たしてくださらないはずがないのです。あなたは明日という日、将来をなんら心配するに及びません。大切なのは「今日恵みを受けた私であること」「今日イエス様を礼拝できていること」です。このすばらしいお方を

私たちの救い主として与えられていることを感謝するというのが、「今を生きる」ということになるのです。

「今」を生きよう

「今を生きる」ために大切なことがあります。朝目覚めたらその日の初めに聖書に親しみ、感謝の祈りで1日を始めましょう。そうすればその日なにか問題が起こったとしても、患難を喜ぶ私たちになれます。なぜなら問題が神様の喜びを深めるためのものであり、苦しみが慰められるためのものであることが分かるからです。もしクリスチャンがみな平和でなにひとつ悩みのない人たちだったら、悩みを抱えて初めて教会に神様を求めてきた人はどうしたらいいでしょう。ここは私の来る場所じゃない…という思いになるのではないのでしょうか。しかし、もし同じような思いの人が隣人としてそこにいたならば、その人は希望を得、苦しみに耐えることができるようになります。同じような痛みを経験した人のかける声はその人の琴線に触れることができるからです。私たちは日々様々な問題に囲まれ、常に戦いのなかにあります。しかしそのような中においても私たちは神様が共におられるという確信を持つことができることは素晴らしいことです。そのために今を大切にし、いつも感謝し喜んでいきましょう。もし家族のうちに調子が悪い人がいるならば今、この人を救い癒し祝福してください。祈りに祈りましょう。もし礼拝にいつか誘おう、神様のことをいつか話そうという人がいるならばいつかではなく今、行いましょう。そのようにして、1日の終わりに今日の感謝をもって祈り、眠りにつくことができたら、次の朝もきっと良い目覚めを与えられるでしょう。このようにして感謝と喜びをもって、祈りの中で自分の感情を神様に委ねて清めていただきましょう。このような日々を積み重ねることで、もし私たちのうちに問題が起こったとしても、必ず御霊が助けてくださること、思いを超えた知恵が与えられることを実感できるようになります。そしてすべてが恵みに変わるので、私たちは辛いこと悲しいことに動じなくなります。私たちの身体は調子によって変わりますが、イエス様の十字架は永久で、神様の愛や慈しみは何があつても変わらないことが分かります。そうなれば、私たちがもし気落ちして喜べない状況になろうとも、十字架で購ってくださったことを知っている私たちの唇は信仰によって主を賛美し心から褒め称えていくことができます。問題が起こったとしても、神様がこの問題を考え解決へ導いてくださる、感謝しますというふうにならば今を生きていきましょう。そうすることで魂に力を与えられ、段々と成熟したクリスチャンに成長していくことができます。成熟とは問題のうちにある人を非難することなくその人が神の恵みに変えられていく姿を見たいと願うこと、嫌なこと辛いことがあつても一緒に祈ること、礼拝を欠かさずいつも愛を持って祈れるということです。私たちは単に年数を追うだけでなく、今日から1日1日しっかり祈って毎日が感謝で溢れていけるようにしましょう。

10周年に向けて「今が恵みのとき、今が救いの日」です。習慣的な記念礼拝ではなく御霊の恵みが満ち溢れるような記念礼拝を迎えるために、皆で日々祈り、日々感謝し、日々信仰の歩みをしていく必要があります。この神様からの恵みは永遠に恵みの時ですから、今日恵まれずして私たちの人生には恵みはありません。私たちの祈りが今必要ならば今祈らなければいけません。今日信じて解放され、私たちがしなければいけないことを「今」していきましょう。

(要約者: 平澤 瞳)